



禪の風

第五十一号 目次

特集……………4

西遊記——そして玄奘の伝説と事績

監修・吉村誠 駒澤大学仏教学部仏教学科教授

西遊記の源流とその千年史……………6

民衆の注目・敦煌文書の物語……………6

悟空は「空」を「悟る」のか……………11

三蔵法師の旅立ちと結末……………12

最古の祖型『大唐三蔵取経詩話』……………14

講談から白話小説の金字塔へ……………16

元代・三弟子がついに揃う……………16

三弟子の原型と変遷……………18

沙悟浄——神から玄奘の弟子となる……………18

猪八戒——三車和尚といわれた慈恩大師……………20

孫悟空——使者となった異国の少年……………23

一行を助ける登場人物……………25

立ちほだかる妖怪たち……………26

『般若心経』から見る物語の変容……………28

砂漠の悪鬼を退ける……………28

恐るべき力から心の支えに……………30

玄奘の旅路……………32

玄奘の事績と生涯……………34

三蔵法師の中の三蔵法師……………34

玄奘が学んだ唯識とは何か……………36

最後の偉業『大般若経』……………36

人天の宝『大般若経』の力……………39

特集関連企画……………42

描かれた「猿」

監修・山下裕二 美術史家・明治学院大学文学部教授

詣 禅寺を訪ねる……………50

澤田山小林寺

——玄奘三蔵法師の御聖骨を奉安する

誌名題字は、高祖道元禪師の残された文書から「禪」「の」「風」の三文字を集字しました。





西遊記

—そして玄奘の伝説と事績

監修 吉村 誠 (駒澤大学仏教学部仏教学科教授)

七世紀、インドに法を求め、玄奘三蔵は国禁を犯して長安を出た。

そして法師の帰国から約千年。小説『西遊記』が“完成”する。

孫悟空・猪八戒・沙悟浄らの活躍、

仏・菩薩や神々の助けて大願を成就する、

その奇想の西天取経物語は、今なお大きな人気を保つ。

『西遊記』とは何か。仏教の視点からその源流を辿るとともに、

三蔵法師のモデルとなった実在の玄奘について、

その偉大な事績と生涯の一端を探る。



描かれた「猿」

監修 山下裕二（美術史家・明治学院大学文学部教授）

中国から伝わった水墨画では、当初、もっぱらテナガザルが描かれた。ニホンザルを描くのは戯画の世界だったが、江戸時代になると、水墨画家たちもリアルなニホンザルを描くようになる。水墨画における「猿」について、その歴史に触れてみたい。

南宋時代・テナガザル

牧谿筆

『観音猿鶴図』

（大徳寺蔵）

猿といえば牧谿

描かれた猿といえば、国宝の絵巻『鳥獣人物戯画』（平安・鎌倉時代、高山寺蔵）の擬人化された猿が有名だ。ここでは鹿、兎、蛙とともにニホンザルが人間のように活動している。これは風刺や寓意において描か

れた猿だ。また、『石山寺縁起絵巻』第五巻第一段には、牛馬の守りとして厩につなぐれた猿の姿が見える。これは人間の生活の中でのニホンザルである。ニホンザルは古くから人間の身近な存在だった。

しかし水墨画では、ニホンザルは江戸時代まで画題にならなかった。水墨画は鎌倉時代に中国から伝来する。禅宗寺院を中心に発達していくが、まずは中国風が目指され、もっぱらテナガザルが描かれた。中でも南宋末・元初（一三世紀）の禅僧・牧谿の描いたテナガザルは、猿とはこう描くもの、という手本とされた。いわゆる「牧谿猿」で、『観音猿鶴図』に描かれている。

牧谿筆『観音猿鶴図』（左頁：部分、右：全体）
13世紀・南宋、絹本墨画淡彩、三幅、
観音：縦171.9×横98.4cm、猿：縦173.3×横99.4cm、鶴：縦173.1×横99.3cm、
臨済宗大徳寺派大本山大徳寺蔵（京都市）、国宝

牧谿の確かな真筆は十数点で、すべて日本にある。『観音猿鶴図』は牧谿の署名がある唯一の作品。「蜀僧法常謹製」とあり、僧侶としての名（法諱）は法常で四川省出身とわかる。杭州・西湖の畔にあった六通寺の住持だった。絵の師は股濟川。この人の作品は現存せず伝記もない。僧侶としては臨済宗の無準師範（ぶしゅんしばん、1177～1249）の弟子。師範は四川省出身で、杭州にある中国五山の第一、徑山興聖万寿禅寺三十四世となり、皇帝に招かれて説法をしたこともある高僧だ。来日した兀庵普寧（ごつたんふねい）や無学祖元、日本人の円爾弁円らが牧谿の同門。



詣

禅寺を
訪ねる

澤田山小林寺

玄奘三蔵法師の御聖骨を奉安する

玄奘三蔵法師は、唐の麟徳元年(六六四)年二月五日に六三歳で遷化した。

最初、長安(現・西安市)東南の白鹿原はくろくげんに埋葬されるが、

総章二年(六六九)には長安南郊、現・興教寺の地に改葬される。

そして宋の天聖五年(一〇二七)には演化大師可政が

玄奘の頂骨を建康(現・南京市)の天禧寺てんきじの東丘に埋葬。

さらに明の洪武十九年(一三八六)、同寺の南丘に改葬される。

そして六〇〇年後、中華民国二九年(一九四二)に、

南京の中華門外で日本軍が玄奘の頂骨が入った石棺を発見した。

頂骨の一部は日本にも分骨され、国内の七カ所で奉安されている。

そのうち一カ所が兵庫県丹波篠山市の曹洞宗澤田山小林寺だ。

「玄奘三蔵法師聖骨塔」に頂骨を奉安し、

仏教史に偉大な業績を残した玄奘の遺徳を偲ぶ、心のよりどころとなっている。



所在地：兵庫県丹波篠山市前沢田334
電話：079-552-2291
H P：https://www.shourinji.com
アクセス：JR福知山線「篠山口」駅からタクシー
で約15分
「篠山口」駅からバスの場合、神姫バス
で「城北口」停留所下車徒歩約8分
舞鶴若狹自動車道「丹波篠山口」ICから
約15分

玄奘三蔵法師の遺骨を納める聖骨塔は、小林寺本堂裏手の小高い場所にあり、ここは「玄奘三蔵法師聖骨塔壺所」と呼ばれている。塔には「玄奘三蔵法師頂骨塔」と刻まれており、頂骨は頭蓋骨の一部を意味する